

膝の中が攣るーハンター管周囲へのアプローチが著効を呈した2症例ー

○久米 信好, 中澤 正孝, 高橋 雅足 (東京有明医療大学)

Key words : Knee, Cramps, Hunter's canal

背景: 30年以上に亘る臨床経験上で, 同日に2名の患者から「膝の中が攣る」という相談を初めて受けた。「攣る」とは, 医学用語では「有痛性筋痙攣」や「筋クランプ」などと表現され, 意識していない強い筋収縮が突然発生するもので, 筋細胞中のCa, Mg, Na, K, H₂の各イオンバランスの乱れが誘発の一因となる。

症例: 症例1は70歳代女性, 膝の中が攣るようになったのは約3年前からで, 原因なく突然発症し, 温めていると30分程で軽快してくる。症例2は50歳代女性, 膝の中が攣るようになったのは約2年前からで, 原因なく突然発症し, 消炎・鎮痛剤(ロキソニン)を飲むと30分程で軽快していたが, 最近は効かなくなってきたと訴える。



図1. 患者が訴える主訴の部位と臨床所見

方法: 両症例とも, ハンター管周囲部の圧痛と叩打時に膝内側から下腿内側に向かって放散痛を訴えたため, ESPURGE(伊藤超短波)のマイクロカレントモードと柔整手技療法・運動療法を行い, ハンター管部にCanalソフトシート(誠鋼社)をあて, 弾性包帯にて外固定を行った。



図2. 物理療法と運動療法

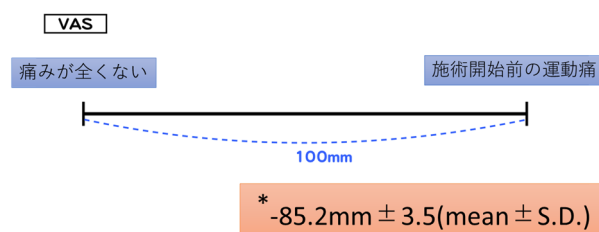


図3. 柔整手技療法



図4. 外固定

結果: 2症例とも3回の施療を行い日常生活上の違和感や膝の中の攣る感じも1ヶ月間出現していない。各施療後の膝の運動痛の変化をスマートフォンアプリ(Painometer V2.)のVisual Analogue scaleで評価した結果, 運動痛は $-85.2\text{mm} \pm 3.5$ と変化し, 統計学的有意差を認めた(メディアン検定, JMP Pro 15)。



考察: 「膝の中が攣る」と訴えに対し, 明確な回答を患者には与えられていないが, ハンター管や縫工筋・大腿内側広筋等で伏在神経膝蓋下枝や大腿神経の内側広筋枝が絞扼されたことが一因になるのではないかと考えられ, 今後も追試研究を行いたい。